



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年08月13日 第931号「週刊五十嵐レポート」

赤字会社、社長の決断

利益は、社長が作った経営システムの有効性を知る唯一の方法。赤字であれば、経営のやり方に構造的な欠陥があることを意味する。

A社は、卸売業者。前期は大きな赤字を計上し、所有不動産を売却してなんとか事業継続をすることができた。

粗利益/人－経費/人＝経常利益/人。

黒字会社の業界平均の1人あたりは、1,000万円－850万円＝150万円。

それに対してA社は、800万円－900万円＝▲100万円。

A社は粗利益で業界平均より200万円少なく、経費は50万円多く、100万円の赤字。

これは何を意味しているか。

経営目標を間違い、経営戦略を間違えて、従業員が一生懸命仕事をする、経営効率が著しく低下する。1人当たりの粗利益が1年で100万円～200万円も減少する。この損失は目で見えない。

調べた結果、大口の不採算顧客があった。営業マン、事務職員、倉庫関係の従業員たちは真面目に従事してくれていた。利幅がなく、運送費もかさみ、赤字取引だった。A社長、「従業員は一生懸命働いている。それがただ働きになっていた。全ては、私が何も手を打たなかったからだ」。

『戦略(社長)の失敗は、戦術(従業員)ではカバーできない』

『社長の目標の定め方の善し悪しが、業績を決める』

A社長は、直ちに大口不採算顧客を訪問し、取引解消を申し出、メーカーと直接取引を紹介した。その余った人員を現在成長している黒字事業に投下した。

価値(粗利益)＝資本の力×戦略知識×戦術技術×仕事時間。

目標・戦略を間違えると戦術技術も仕事時間も大きな損失になる。A社長は大きく胸をなでおろした。

ちょっと
気なる出来事

8月5日(月)～9日(金)、孔子学院主催「中国語・中国文化体験」サマーキャンプIN北京、洛陽に参加。

参加者は10名。ほとんどの人が中国語を10年ぐらい勉強している。平均70歳前後。私が唯一ビギナーで一番の年下。

みんなは、中国人の話が聞き取れる。私は全く解らない。孔子学院の職員である中国人と現地の北京航空航天大学の中国人先生から中国語の千本ノックが飛んでくる。しどろもどろになりながら、口から中国語を発する。教えてもらった言葉や文章をノートに書き写す。

白馬寺(中国最初の仏教寺)に苦勞してたどり着いた空海の銅像があった。はるか彼方の地までやってきた空海を思う。

最後の日(北京)、小岩住人の中国人から北京在住の親戚に小荷物の依頼があり、宅配業者に頼む。何も紙に書かない。スマホで住所の書かれているペーパーを写すか、喋って、スマホが文字化して入力完了。翌日、無事に届く(着払い)。

中国のITと物流の進化に驚く。高速鉄道にも乗ったが日本の新幹線と遜色ない。(みんなから5日間で中国語が一番成長したといわれた)



一口メモ
知識

自らの経験を語ろう

世の中では、愛や平和や道徳がしつこく語られています。しかし、私たちの耳にはうるさくしか聞こえません。

そのことばに重みがないからです。

ただ説教しただけでは、世の中はよくなりません。言う人がまず実行して、経験して、自分の体験を語るべきです。

人が経験を語る場合は、みんな耳を傾けます。迫力があるので、真面目に聞くのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

〒五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

